

卒業式のマスク、子どもや教員は原則不要 岸田首相表明

2023/2/10 日本経済新聞



埼玉県戸田市立戸田東小学校で、授業を見学する岸田首相（10日午前、埼玉県戸田市）=代表撮影

岸田文雄首相は10日、今年の学校の卒業式に出る子どもと教職員は原則、マスクの着用を不要にすると表明した。「換気など感染対策を講じたうえで国歌などの斉唱や合唱の時を除き児童生徒と教職員は着用しないのを基本とする」と述べた。

埼玉県戸田市で小学校を視察後、記者団に語った。着用を望む子どもには「決して着脱を無理強いすることがないように求めたい」と話した。

首相は「今日も現場の意見を聞いた。今年卒業式を迎える子どもは3年間ずっとマスクを着けて過ごしてきた」と指摘した。「卒業式ではお互いの笑顔を見ながら参加してほしい」と強調した。

社会全体でのマスクの扱いは10日午後に関係閣僚と議論する。そのあとに各閣僚が説明すると明かした。

卒業式「マスクなし基本」、合唱では着用も 文科省通知

文部科学省は10日、学校の卒業式について「児童生徒と教職員はマスクを外すことを基本とする」との通知を都道府県教育委員会などに出した。式典中の合唱や児童生徒による「呼びかけ」ではマスク着用を含む感染対策を求める。保護者や来賓はマスクを着用し、参加



卒業式のマスクの扱いを説明する永岡桂子文部科学相（10日午後）

人数の制限は不要とした。

通知は卒業式の入退場や卒業証書の授与、卒業生代表のあいさつの場面などを挙げ、「式典全体を通じてマスクを外すことを基本とする」と説明した。基礎疾患や感染への不安を持つ児童生徒に学校側が着脱を強制しないよう適切な指導も求めた。

永岡桂子文科相は記者会見で「卒業生は学校生活の大半を新型コロナウイルス禍で過ごし、教育的意義を考慮した。強制ではなく、感染が心配な人が着用して出席するのをとがめるものではない」と述べた。

3月の卒業式シーズンを控え、文科省は対策の緩和を検討していた。学校生活全体のマスク着用は4月1日から見直す。入試の感染対策としての着用は引き続き求める。